



ご本尊ご内陣諸尊

平成二十年戊子歳の初春を迎え、謹んで賀詞を言上し、檀信徒の皆様にご心からのお喜びを申し上げます。

順信院日薫

第三十三世



発行所  
山鹿市山鹿55  
圓頓寺  
☎43-2424

昨年中は、圓頓寺檀信徒護持会会員の皆様方には、護法護持の念厚くして、當山の興隆発展の為に皆様より、ご浄財喜捨を賜り、特に、三月に第三十二世一妙院日淳上人本葬儀並びに二月・副住職日攝上人の大荒行第再行成満帰山奉告式など弔事慶事の稀有なる二大式典が盛儀に催され、種々のご高配に対し、総代護持会役員一同心から御礼申し上げます、當山の興隆と檀信徒の皆様方の家運隆昌並びにご多幸を祈念申し上げます。

山鹿城跡に開山創建

さて、當山香華道場は、

山鹿重安公の居城跡に創建せられ、法華勝縁の然らしむる処、御清正公さま菩提寺・旧本山・発星山本妙寺の直末の縁由により、寛永元年（一六二四）甲子の歳、本光院日授上人が開山創建され、開闢以来三百八十余年、爾来、幾星霜を重ね肥後城北に於いて、名湯の地、山鹿の法華経の道場として、代を累ぬること三十三有にして日薫・法嗣日攝に至る。

本堂焼失・再建

その間、天保六年乙未七月十六日、本堂を焼失しましたが、十五年後の嘉永二年乙酉の歳、第二十一世妙園院日導上人、第二十五世本浩院日正上人により、本堂（入母屋破風造、梁間七間桁行七間、木鼻、虹梁に浮彫の彫刻が有名）が再建



四天王・毘沙門天像

されました。特に、災禍に免れた、御宝前安置の「ご本尊ご内陣諸尊」（上記の写真）は、二百六十八年前（元文五年（一七四〇）庚申仲冬）に宗祖ご生誕五〇〇年慶讃法要記念造立の「三宝尊御本尊・法華経一部経経巻・四菩薩立像四天王立像」等に第十二世恵光院日曜上人代に発願され、願主當山檀越・木下円了・施主・久留米屋市右衛門、茶屋佐右衛門、額田勝兵衛の方々や町衆中によって、開眼供養勸進説

法五席が奉行された先師先哲の希有なる歴史がありま

受け継がれたお題目

日蓮大聖人様から先師や町衆中へと委ねられたお題目の歴史を辿り、それから二百六十有余年の歳月を超えて、圓頓寺の檀越に受け継がれ、たもち続けられたお題目のご縁は、いま私たちに結ばれています。

大聖人と清正公さん

来る、平成三十五年に宗祖御生誕八〇〇年並びに平成三十六年に圓頓寺の開創四〇〇年と、特に、平成二十二年に清正公御入滅四〇〇年の嘉辰を目途とすると、日蓮大聖人や清正公大尊儀よって示された法華経流布の願いを現実のものに

するために、「お題目を次世代へ伝える運動」を掲げております。



(當山の清正公絵図)

正しい教えを宣布

昨今は、情報過多の時代と言われ、本場に必要ない情報を選び出すことが難しく、特に宗教においても多様な宗教が混在し、今こそ、正しい教えを宣布することが望まれております。

そこで、當山では千載一遇のこの機会に、本化の妙道で正しい教えを高顕せしむることができ、新たな

布教方法の一つとして、時代即応のマスメディアを通じた「ホームページ布教」が新年より始まりました。

ホームページ開設

今般、ホームページ開設にあたり、その木下家の末裔であられる、「妙法正智院日龍居士・俗名木下龍霊位」の父君の追善菩提の為に、企画・編集・作成を横浜市のエスエムジー(株)取締役社長新免流氏と新免玲子女史(日龍居士の長女)の篤信なる徳行喜捨によって出来上がりました。ここに亡父菩提の積善のご供養に対し衷心よりお禮申し上げます。

更に、これらによって「お題目の心」を一人でも多くの人に伝え「お題目の輪」を弘めることのできる

JA鹿本(株)鹿本広域福祉センター総合葬祭会館 やすらぎの里



天 寿 苑

〒861-0535 熊本県山鹿市南島1246(山鹿大橋そば)

TEL. 0968-44-0983

葬儀場・法事会館を併設した総合葬祭会館です



上人英知を清める黒大子

「弘通活動」の志をふるい  
起こし、役員一同新なる歩  
みとなることを期待します。  
これからは、檀信徒をは  
じめとして、より多くの方々  
に日蓮宗の教え、また圓頓  
寺を知っていただくと同  
時に、今後は、日蓮宗信者の  
研鑽の場として活用してい  
く予定です。

当サイトをご覧いただき、  
皆さまと信仰の接点を持ち、  
さらに、益々の信心増進あ

らんことをお願い申し上げ  
る次第です。

また、當山が、次世代へ  
伝えるお題目布教活動推進  
のために発刊いたす「圓頓  
寺たより」とともに、今後  
は、當山広報部会でホーム  
ページ紙面質量の充実を図  
り活用したいと考えます。

**宗祖御降誕八〇〇年  
慶讃記念事業**

最後に、宗祖御降誕八百  
年の記念すべき嘉辰を目途  
とするとき、全国日蓮宗寺  
院において宗祖の御遺徳を  
お慕いする報恩行として、  
宗門が提唱するところの、  
第一期・第二期・第三期・  
第四期を設け長期に亘る各  
種の「慶讃記念事業」が計  
画されています。

當山においても、殊に、  
嘉永元年開闢以来、平成三

十六年に圓頓寺の開創四百  
年や特に、平成二十二年に  
清正公御入滅四〇〇年の慶  
節をお迎えするとき、昨年  
は、十月十二日～十一月二  
十五日に、熊本城築城四〇〇  
年記念で「激動の三代展・  
加藤清正・忠広・細川忠利  
の時代」が、熊本県立美術  
館で開催されて、城主とし  
て激動の時代を全力で行き  
抜かれ、清正公五十歳で、  
ご入滅までの歴史の真相と  
行跡や法華経信仰を今に伝  
えた、公の法勳に迫り、未  
来を見据えられた清正公の



激動の三代展のチラシ

# ニッセイ同和損害保険株式会社 熊本支店

〒860-0804 熊本市辛島町5-1 日本生命熊本ビル  
☎ (096) 353-3491 FAX (096) 355-7380

偉大な御題目信仰の根幹の一部を垣間見せて頂いた気持ちで、見学者一同感動いたしました。

諸事業円成に邁進

當山として、これらの、聖日に向い、祖恩報謝の一端に擬せんと欲し、また、清正公大尊儀の応護を賜る寺院として、今後「慶讃記念事業並びに大法要奉行や祖山総登詣団参実施」などを発願し、特に、次世代を継承する、副住職日攝上人が皆様のご支援を賜り、日蓮宗大荒行第再行で色読した、壹百日間の苦修練行の修行の功德をもって、檀信徒の教化指導に励み、諸事業円成に力を注ぎ、益々活躍するものと期待しております。本年度より、総代護持役員会に時を計りご相談申し



和田さんに行衣を授与する英知上人

上げ、忍難慈勝の大神に報い邁進したいと存じます。

南無妙法蓮華經

圓頓寺ホームページ開設

www.entonji.jp

※アクセスをお待ちしています。



宗祖ご報恩初講法要会

日蓮大聖人御入滅第七二年遠忌報恩会の行事を迎えるにあたり、特に、来る正月十三日(土)、當山では「報恩初講会並びに第三十二世、日淳上人第一周忌と年始ご先祖供養会」が奉修されます。皆様と共に、ご家族揃って、日蓮大聖人様へ、ご先祖様へ卒塔婆供養の積善の功德を送り報恩のまことをささげたいと存じます。

尚、當山三十二世一妙院日淳上人には、来る一月二十六日に第一周忌をお迎えします。ご繁用中の折誠に恐縮に存じますが、ご焼香を賜りますようご案内申し上げます。



山鹿市上下水道工事指定店  
給排水・衛生施備・冷暖房設計施工

とらや商会  
資会社

山鹿市鹿校通1丁目3-29  
☎43-2212(代)  
(FAX)☎44-5900

日産プリンス熊本販売(株)

※ 只今、試乗会開催中 ※

お車のことなら何でも、お気軽にお電話ください。

〈 3号線沿い、中央通り 〉

山鹿店 0968-43-5148

隱  
清正公の  
躰  
徳  
長鳥帽子兜

副住職 荒木 英人



副住職の水行を見守る檀信徒

過日、偶々<sup>たま</sup>本妙寺の宝物館に足を運ぶ機会があった。本妙寺は加藤清正公の菩提寺。宝物館には、様々な清正公ゆかりの寺宝が展示されていた。

熊本に住んでいながら、

宝物館には初めての訪問。拝観した寺宝は、どれもが貴重なものばかりである。歩を進めると清正公ご着用の兜も収められていた。長鳥帽子の形をした有名な兜である。しばらく、じっと見入っていると、傍らに

おられた学芸員の方から、思いもかけない貴重な説明を頂くことになった。長鳥帽子兜にまつわるお話である。

驚くことに、この兜の細長い長鳥帽子の部分は、清正公が自筆で写経された和紙を基に張り懸けて制作されたとのこと。当然、説明がなければ、このことは全くわからない。兜の表面が黒漆に塗られているのだから



白檀塗蛇の目紋蒔絵仏胴具足 蛇の目紋長鳥帽子形兜（本妙寺所蔵）

拝む心で尊い品を

# 梅谷仏具店

本店 〒812-0027 福岡市博多区下川端町10-9

TEL 092-271-0456

年中無休 駐車場完備

支店 〒819-0373 福岡市西区周船寺3-9-4

TEL 092-806-7499



ら、土台の写経された和紙の部分には隠れてしまい、余人が伺い知ることは到底かなわないことである。

私は、このお話に強い感銘を受けた。清正公は、あえて他人には見えないところにこそ、法華経の修行の足跡、功德を残されているのである。清正公の偉大な法華経信仰の根幹の一部を垣間見せて頂いた気がした。

清正公といえ、常に題目旗を靡かせておられるお姿。家中の合印も「南無妙法蓮華経」。いにしえの人々も、その外見から、清正公の法華経行者としての威徳を大いに感じとっていたことであろう。まさに、威風堂々である。

しかしながら、清正公の威徳は、その外貌だけで照らしだされたものではない。

見える部分に相応する以上の、見えない部分での修行による功德に裏打ちされた内面性があつたからこそ、生じ得たのであろう。故に、

清正公は、人々の真心を捉え、自ずと徳が顕れ尊崇の存在に、また、法華経を守護する善神としての崇拜の対象となられたのであろう。日蓮大聖人の御遺文にいわ



護持会会長 鬼木信次郎

皆様の  
お力添えに  
御礼

『隠れての信あれば顕れての徳あり』（上野殿御消息）

偉大な清正公の真摯かつ謙虚な信仰を今に伝える、長鳥帽子兜。内と外との信仰心の両立。重要な課題である。我々も陰ながら信仰を積み重ね、自然に少しでも徳が顕れるような存在へと近づきたいものである。

南無妙法蓮華経

明けましておめでとございます。

平成二十年の新春を迎え、謹んで檀信徒の皆様、当山関係者の皆様のご健勝をお慶び申し上げます。

昨年一年間、寺門興隆のためご住職並びに副住職の補佐を務めながら、檀信徒

航空券・JR・個人旅行・団体旅行

株式会社 **ワールド観光**

TEL 0968-72-5656

玉名市中尾426-3



副住職の特別祈禱を受ける檀信徒

の皆様のご協力とご鞭撻をいただき、護持会活動の運営ができましたこと、皆様  
の浄行ご芳志のたまものと  
役員一同心より感謝申し上げ  
ます。

一年間の諸行事を振り返  
りますと、

一月十三日 初講法要

三月二十八日 鬼子母神大

祭、お彼岸法要

五月三日 大黒天祭並びに

立教開宗七五五年法要

七月三十日 孟蘭盆お施餓

鬼法要

十月十三日 お会式法要

十二月八日 荒神大祭並び

に年末先祖養

の六大法要が盛大に執り

行われました。

その他の行事も

一月二十〇二十八日 大寒

寒修行

二月二十七日 護持会定期

総会

六月十六日、十二月十五日

合同大掃除

七月十五日 前任職一妙院

日淳(恵海)上人初盆供

養

八月二十六・二十七日 第

二十一回檀信徒研修道場

八月二十九・三十日 九州

地区檀信徒研修道場

十月五日 護法大会

これらのお寺の諸行事が

出来ましたこと、お檀家の  
ご奉仕など本分を果たされ、  
種々のご高配に対して心よ  
り厚く御礼申し上げます。



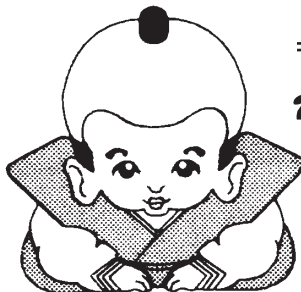
恵海上人の本葬儀で焼香する鬼木会長

特に昨年は大行事が重なり、圓頓寺興隆のために五  
十数年尽くされました、御  
前様恵海上人が九十二歳を  
もつて一月二十六日遷化さ  
れ、二十八日通夜、二十九  
日お寺による密葬。三月十  
五日午前十一時より圓頓寺

### 呉服の反後の住所・電話が変わりました!!

〒860-0868 熊本市清水万石3-2-2

☎0968-344-4759 FAX096-344-4760



株式会社 呉服の反後

代表取締役 反後 皓雄

本堂に於いて 檀信徒葬として相営みました。

また、副住職順境院日攝(英人) 上人が、日蓮宗加行所中山法華経寺にて第再行入行され、二月十日寒中壱百日間の大荒行を成満され、二月十二日に帰山奉告式を厳肅に奉修致しました。



副住職の帰山式で挨拶する鬼木会長

二つの大行事が出来ましたこと、ひとえに檀信徒皆様の一致団結のご支援とご

協力のたまものと、総代一同心より深く感謝申し上げます。

最後に、私事一身上並びに諸行事の際にご覧のとおり足、腰が悪く、三月の定期総会をもって筆頭総代の

### 日蓮大聖人のおことば

#### 富木入道殿ご返事

「ひろめ残せる一大事の秘法を、この国に初めてこれをひろむ。日蓮<sup>あに</sup>その人に非ずや。」

日蓮大聖人が佐渡が島に到着されて二十日あまり経って、千葉の富木氏に宛てられたお手紙です。龍の口の首の座、佐渡

席を退任させていただきたい。と願っています。

檀信徒皆様の力添えで微力ながら今日まで職責を全うできましたこと、心から厚く御礼を申し上げます。合掌

流罪を日蓮大聖人はこのように受け止められました。先師たちが、まだ機が熟していないと思い、説き残されていた法華経を今私がひろめている。

法華経がひろまれば、法華経が説かれる前に説かれたお経は、朝日が昇ると星が見えなくなるように、影が薄くなつてしまします。前代未聞のことです。しかし、末法の時に法

婚礼・着付

# サンロード大住

山鹿市古閑 1286-3

☎ 44-6277





日蓮聖人註画讃「佐渡配硫（部分）」（京都・本圀寺）

華経をひろめなければなら  
ないのは、お釈迦様のお言  
葉ですから、これを守らな  
ければならない。

その時が来たことを悟つ  
た日蓮大聖人は、お釈迦様  
に与えられた使命として、  
自分の役割を受け止められ  
ました。

そうです。法華経に示さ  
れた、地湧の菩薩のリーダー  
である上行菩薩としての自  
覚です。

その立場に立てば、多く  
の難はこれまた法華経に示  
されている通りのことで、  
日蓮大聖人にとっては、信  
仰を深める力にほかなりま  
せん。難の多きことに負け  
ず、仏の国をこの世に生み  
出す努力をしましょう。と  
呼びかけていらつしやいま  
す。

私たちのために、法華経

をひろめ、多くの難を受け  
ながらも残していただいた  
お題目。お釈迦様の心を伝  
えた法華経を大切にします。  
という私たちの正行です。  
お釈迦様と私たちを結ぶ絆  
です。この絆を多くの人に  
紹介して、お題目のご縁を  
ひろげてください。

# ご先祖様・お祖師様に感謝

護持会副会長 阿蘇品宗愴



謹んで新春のお慶びを申  
上げます。



福岡県久留米市  
妙正寺住職 田中 潮祐

さて、平成も二十年、昭  
和天皇が崩御されて日本中  
が喪に服した暗く悲しい正  
月を思い出します。

それから二十年の歳月の  
流れの早さに只々驚くばか  
りです。

平成の御世になって、日  
本の高度経済は、バブルの  
ごとくはじけてしまいました  
た。その間私たちの社会生